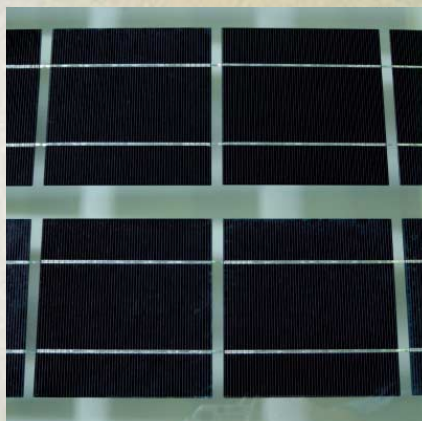


# 株主の皆様へ

## 第137期 中間報告書

平成14年4月1日～平成14年9月30日



表紙の写真：採光型太陽電池モジュール

環境に配慮したビル建築などに採用されている太陽電池モジュールです。当社は太陽電池を封入した合わせガラスを提供し、環境負荷低減に寄与しています。

## ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第137期上半期（平成14年4月1日から平成14年9月30日まで）を経過いたしましたので、ここに当上半期の営業の概況をご報告申し上げます。



平成14年12月10日

日本板硝子株式会社

社長 **土原洋三**

## 営業の概況

当上半期における我が国経済は、春先には輸出を中心に一部に改善が見られたものの、米国経済と同様に株式市場の低迷などから企業の設備投資は減退し、個人消費も回復せず、引き続き厳しい状況のまま推移いたしました。

当社関連需要につきましては、自動車関連は国内販売の好調と輸出の増加により好調に推移いたしましたが、住宅及びビル関連は減少いたしました。また情報電子関連は携帯電話、ノートパソコンなど一部に回復の兆しが見られたものの、全体では低迷いたしました。

このような状況の下、当社は、高機能・高付加価値商品の拡販に努め、板ガラス及び情報電子部門で徹底したコスト削減を推進してまいりましたが、当中間期の業績は以下のとおりとなりました。（括弧内の数字は前年同期比を示しております。）

売上高	881億91百万円（4.2%減）
経常損失	18億86百万円（ - ）
中間損失	21億55百万円（ - ）

当期の中間配当につきましては、厳しい事業環境の中、当期の業績見通しなど慎重に検討いたしました結果、見送らせていただくこととい

たしました。株主の皆様には、誠に申し訳なく存じますが、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

**部門別の状況**は次のとおりであります。

#### <板ガラス部門>

**建築ガラス事業**の売上高は、複層ガラス、合わせガラスなど高機能ガラスは、ほぼ横這いに推移したものの、大口工事用のガラスが減少し、前年同期を若干下回りました。

**自動車ガラス事業**の売上高は、自動車関連需要の好調により、前年同期を若干上回りました。

**板ガラス部門全体**では、売上高は前年同期比4.0%減の507億53百万円となりました。

#### <情報電子部門>

**ディスプレイ事業**の売上高は、携帯電話向け液晶需要の増加により前年同期を大きく上回りました。

**光事業**の売上高は、北米光通信市場の昨春来の減少傾向に歯止めがかからず、マイクロレンズが減少したため、前年同期を大きく下回りました。

**ガラス磁気ディスク事業**の売上高は、ノートパソコン用需要は増加いたしました。デスクトップ用ガラス磁気ディスクの減少などにより前年同期を若干下回りました。

**情報電子部門全体**では、売上高は前年同期比4.0%減の166億4百万円となりました。

#### <その他部門>

**サッシ等建材事業**の売上高は、サッシ介入販売を減らしていることにより前年同期を大きく下回りました。

**ガラス繊維事業**の売上高は、前年同期を上回りました。

**その他部門全体**では、売上高は前年同期比5.0%減の208億33百万円となりました。

**下半期の見通し**につきましては、世界的に景気の先行き不透明感が強まっており、回復が見込まれているIT関連分野にも変化の兆しが見え始めております。当社関連では、**板ガラス部門**は住環境の弱含み、自動車の輸出の伸びの鈍化などにより、厳しい状況が続くものと考えられ、また**情報電子部門**も光事業をはじめ、ガラス磁気ディスク事業などに先行き不透明感があり、厳しい状況が続くものと考えられます。

当社といたしましては、このような状況に対応し、中期計画「ACT21」の見直しを行い、残りの後半のステージに向けて、目標達成のための対策を検討し、実行に着手しております。

**板ガラス部門**では、高機能ガラスの拡販、徹底したコスト削減を通じて、安定した収益体制

を構築してまいります。

**情報電子部門**では、光事業は棚卸資産や設備を見直すと同時に、拠点及び組織の再編等による事業の再構築に取り組んでおり、その他の事業も競争力強化の施策と新商品・高付加価値商品の開発に力を注いでまいります。

**その他部門**のガラス繊維事業は、本年9月より、その一部であるガラス長繊維事業とサンゴバングループとの提携を実施いたしましたが、今後も当社子会社である日本無機株式会社との相乗効果の追求、当社固有製品の一層の競争力強化及び採算性の向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(注)この中間報告書では、百万円単位の金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 貸借対照表

平成14年9月30日現在

(単位：百万円)

科 目	金 額
<b>資 産 の 部</b>	<b>370,661</b>
<b>流 動 資 産</b>	<b>99,930</b>
現 金 及 び 預 金	14,888
受 取 手 形	6,292
売 掛 金	40,789
製 品 及 び 商 品	15,601
仕 掛 品	6,724
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	4,765
繰 延 税 金 資 産	3,853
そ の 他 の 流 動 資 産	9,883
貸 倒 引 当 金	2,867
<b>固 定 資 産</b>	<b>270,731</b>
<b>有 形 固 定 資 産</b>	<b>82,501</b>
建 物	31,261
構 築 物	2,398
機 械 装 置	25,332
車 輜 運 搬 具	70
工 具 器 具 備 品	3,067
土 地	13,052
建 設 仮 勘 定	7,319
<b>無 形 固 定 資 産</b>	<b>2,369</b>
施 設 利 用 権 等	2,369
<b>投 資 等</b>	<b>185,860</b>
投 資 有 価 証 券	99,115
子 会 社 株 式	76,900
長 期 貸 付 金	7,496
長 期 前 払 費 用	826
そ の 他 の 投 資 金	1,743
貸 倒 引 当 金	222
<b>合 計</b>	<b>370,661</b>



(単位：百万円)

科 目	金 額
<b>負債の部</b>	<b>182,507</b>
<b>流動負債</b>	<b>88,068</b>
買掛金	28,911
短期借入金	28,258
一年内償還社債	12,381
未払金	4,708
未払法人税等	26
未払消費税等	129
未払費用	4,666
預り金	5,926
賞与引当金	2,379
その他の流動負債	679
<b>固定負債</b>	<b>94,438</b>
社債	39,441
長期借入金	17,060
退職給付引当金	10,029
役員退職慰労引当金	497
修繕引当金	8,162
繰延税金負債	18,616
その他の固定負債	629
<b>資本の部</b>	<b>188,154</b>
<b>資本金</b>	<b>41,060</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>49,556</b>
資本準備金	49,556
<b>利益剰余金</b>	<b>66,510</b>
利益準備金	6,376
特別償却準備金	24
固定資産圧縮積立金	5,351
特別積立金	44,977
中間未処分利益	9,781
(中間損失)	(2,155)
株式等評価差額金	31,087
自己株式	60
<b>合 計</b>	<b>370,661</b>

# 損益計算書

自 平成14年4月1日  
至 平成14年9月30日

経常損益の部		百万円
<b>営業損益の部</b>		
<b>営業収益</b>		88,191
売上高		88,191
<b>営業費用</b>		88,640
売上原価		71,878
販売費及び一般管理費		16,762
<b>営業損失</b>		449
<b>営業外損益の部</b>		
<b>営業外収益</b>		2,596
受取利息及び配当金		1,547
雑収益		1,049
<b>営業外費用</b>		4,034
支払利息		933
雑損失		3,100
<b>経常損失</b>		1,886
<b>特別損益の部</b>		
<b>特別利益</b>		2,784
固定資産売却益		168
投資有価証券売却益		2,615
<b>特別損失</b>		4,437
投資有価証券評価損		334
関係会社株式評価損		2,309
関係会社株式譲渡損		1,793
<b>税引前中間損失</b>		3,539
法人税、住民税及び事業税		157
法人税等調整額		1,541
<b>中間損失</b>		2,155
<b>前期繰越利益</b>		11,936
<b>中間未処分利益</b>		9,781

# 貸借対照表及び損益計算書の注記事項

## 1. 貸借対照表の注記

- (1) 子会社に対する短期金銭債権…………… 25,436百万円  
子会社に対する長期金銭債権 …………… 7,180百万円  
子会社に対する短期金銭債務…………… 16,294百万円
- (2) 有形固定資産の減価償却累計額…………… 167,207百万円
- (3) 重要な外貨建資産負債  
投資有価証券……………13,577百万円  
( 108,732千米ドル、 32,546千リングット 他 )  
子会社株式……………54,529百万円  
( 271,967千米ドル、 56,759千スターリングポンド 他 )
- (4) 担保に供している資産  
有形固定資産…………… 86百万円  
投資有価証券……………3百万円
- (5) 保証債務……………31,140百万円
- (6) 役員退職慰労引当金は商法第287条ノ2の引当金である。
- (7) 修繕引当金は商法第287条ノ2の引当金である。
- (8) 1株当たりの中間損失……………4円86銭
- (9) 商法第290条第1項第6号に規定する純資産額は31,087百万円である。

## 2. 損益計算書の注記

- (1) 子会社に対する売上高……………26,444百万円
- (2) 子会社からの仕入高……………27,064百万円
- (3) 子会社との営業取引以外の取引高……………1,225百万円

## (ご参考)連結貸借対照表

平成14年9月30日現在

(単位：百万円)

科 目	金 額
<b>資 産 の 部</b>	<b>498,536</b>
<b>流 動 資 産</b>	<b>160,902</b>
現金及び預金	37,256
受取手形及び売掛金	65,441
棚卸資産	43,775
繰延税金資産	5,303
その他の流動資産	11,498
貸倒引当金	2,372
<b>固 定 資 産</b>	<b>337,633</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>159,884</b>
建物及び構築物	56,664
機械装置及び車輛運搬具	60,395
工具器具備品	4,903
土地	30,101
建設仮勘定	7,821
<b>無形固定資産</b>	<b>6,982</b>
その他の無形固定資産	6,982
<b>投資その他の資産</b>	<b>170,765</b>
投資有価証券	160,108
長期貸付金	1,806
長期前払費用	1,065
繰延税金資産	3,394
投資その他の資産	5,543
貸倒引当金	1,152
<b>合 計</b>	<b>498,536</b>

(単位：百万円)

科 目	金 額
<b>負債の部</b>	<b>277,994</b>
<b>流動負債</b>	<b>140,298</b>
支払手形及び買掛金	38,763
短期借入金	64,455
一年内償還社債	12,381
未払金	5,769
未払法人税等	1,668
未払消費税等	569
未払費用	6,382
預り金	4,620
賞与引当金	4,023
繰延税金負債	214
その他の流動負債	1,448
<b>固定負債</b>	<b>137,696</b>
社債	39,441
長期借入金	51,917
退職給付引当金	14,144
役員退職慰労引当金	811
修繕引当金	8,183
連結調整勘定	786
繰延税金負債	19,609
その他の固定負債	2,800
<b>少数株主持分</b>	<b>9,928</b>
<b>資本の部</b>	<b>210,613</b>
<b>資本金</b>	<b>41,060</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>50,371</b>
<b>利益剰余金</b>	<b>89,655</b>
その他有価証券評価差額金	31,653
為替換算調整勘定	2,067
自己株式	60
<b>合 計</b>	<b>498,536</b>

## (ご参考)連結損益計算書

自 平成14年4月1日  
至 平成14年9月30日

経常損益の部	
営業損益の部	百万円
営業収益	140,155
売上高	140,155
営業費用	139,505
売上原価	107,882
販売費及び一般管理費	31,622
営業利益	649
営業外損益の部	
営業外収益	2,456
受取利息及び配当金	944
持分法投資利益	22
雑収益	1,489
営業外費用	5,147
支払利息	1,873
雑損失	3,274
経常損失	2,041
特別損益の部	
特別利益	2,930
固定資産売却益	307
投資有価証券売却益	2,623
特別損失	2,213
投資有価証券評価損	361
関係会社株式譲渡損	1,852
税金等調整前中間純損失	1,323
法人税、住民税及び事業税	1,635
法人税等調整額	1,749
少数株主利益(減算)	362
中間純損失	1,573

# 会社の概要

平成14年9月30日現在

<b>設立</b>	大正7年11月22日
<b>資本金</b>	41,060,961,370円
<b>発行済株式総数</b>	443,946,452株
<b>1単元の株式の数</b>	1,000株
<b>株主数</b>	55,805名
<b>営業品目</b>	
（板ガラス部門）	
フロート板ガラス	網入線入磨板ガラス
熱線吸収板ガラス	熱線反射ガラス
高性能熱線反射ガラス	強化ガラス
倍強度ガラス	合わせガラス
複層ガラス	真空ガラス
防火ガラス	型板ガラス
網入線入型板ガラス	鏡
装飾ガラス等	
（情報電子部門）	
光製品（セルフオックレンズアレイ、セル フォックマイクロレンズ、光部品等）	
ファインガラス製品（超薄板、透明電導ガ ラス等）	
産業用ガラス製品	
LCD製品	
ガラス磁気ディスク等	
（その他部門）	
サッシ及び建材	
店装材	
ガラス繊維及び関連製品等	

# TOPICS

トピックス

## 光触媒クリーニングガラス 「クリアテクト」

当社と松下電工株式会社は、外壁用ガラスとして、光触媒の効果（太陽光や風雨の働き）を用いてガラスの外表面をきれいな状態に保つことができるエコ・クリーン商品を共同で開発しました。このクリアテクトは、松下電工社が東京



（完成予想図）

汐留に建設中の東京本社ビルに取り付けられています。このガラスは、窓の清掃頻度を減らすとともに、建物の美観とイメージ向上にも寄与します。現在、モニタリングを前提とした限定販売を行っています。





## PDP用高歪点ガラス 「バンテアン」

当社は、最も比重が軽く、バリウムを含まない環境にやさしいPDP（プラズマ・ディスプレイ・パネル）用のガラスを開発し、発売しました。PDPは、家庭用、業務用を問わず、大型薄型テレビとして人気があり、市場も大きく拡大しつつあります。最近、大型テレビの画質改善が進んできたこともあり、当社は、今までの窓ガラスと同じ組成のPDP用ガラスに換えて、上記の特長を持つバンテアンを開発し、営業活動を展開しています。

# 取締役及び監査役

平成14年11月15日現在

## 日本板硝子株式会社

社 長	出 原 洋 三
副 社 長	阿 部 友 昭
専務取締役	真 鍋 征一郎
専務取締役	木 戸 雄 二
常務取締役	永 井 勲
常務取締役	藤 本 勝 司
取 締 役	田 中 瞳 吾
取 締 役	仁 田 昌 邦
取 締 役	近 藤 敏 和
取 締 役	加々美 信 光
常勤監査役	永 井 輝 雄
常勤監査役	横 川 武 史
監 査 役	武 内 正 康
監 査 役	大 井 尚 一

## 株主メモ

決 算 期

毎年 3月31日

定 時 株 主 総 会

毎年 6月

株 主 確 定 基 準 日

定時株主総会・利益配当金 3月31日

中間配当金 9月30日

そのほか必要あるときはあらかじめ  
公告した一定の日

名 義 書 換 代 理 人

住友信託銀行株式会社

同 事 務 取 扱 場 所

住友信託銀行株式会社

証 券 代 行 部

東京都千代田区丸の内一丁目4番4号

(郵便物送付・電話お問合せ先)

住友信託銀行株式会社

証 券 代 行 部

東京都府中市日鋼町1番10

〒183 8701

(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120 175 417

(その他のご照会) ☎ 0120 176 417

同 取 次 所

住友信託銀行株式会社

本店及び全国各支店

公 告 掲 載 新 聞 名

日 本 経 済 新 聞

会 計 監 査 人

新 日 本 監 査 法 人

⊙ NIPPON SHEET GLASS CO., LTD.